

けんぽく

第36号[平成28年11月号]

県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する情報をお知らせします。



平成28年11月30日発行
「食」と「ふるさと」
新生運動ニュース

編集・発行 福島県県北農林事務所

◆「『食』と『農』JAまつり 2016」及び「農産物品評会」が開催されました！

平成28年10月29日（土）及び30日（日）、福島市のふくしま未来農業協同組合福島本店において、「『食』と『農』JAまつり 2016」が開催されました。



セレモニーでの撒きもちの様子

初日に開催されたセレモニーでは、初めに伊藤昌廣ふくしま未来農業協同組合代表理事専務より挨拶があり、続いて、亀岡偉民国会議員、水戸典明当農林事務所長等から祝辞が述べられた後、盛大に撒きもちが行われました。

会場では、地元アーティストによるライブや福島市立信陵中学校吹奏楽部による演奏会などのステージショーが開催されたほか、同農業協同組合女性部や後継者会、専門部会などによる豚汁や焼き鳥などの飲食ブースや旬の野菜の販売などがあり、朝から多くの親子連れなどで賑わいました。

農産物品評会の表彰式も行われ、まつり前日の10月28日（金）の審査により、総出品数470点の中から、福島県知事賞2点を始めとする特別賞18点、金賞18点、銀賞30点、銅賞59点の計125点

が受賞されました。今年の品評会は、秋の天候不順等の影響により、昨年より出品数が少なかったものの、どの品目も甲乙つけがたく、僅差で入賞を選別しなければならないレベルの高い審査となりました。



品評会審査の様子

今回の「JAまつり」は、合併後初の開催となるもので、地域に根差した福島の実りを満喫できるとともに、同農業協同組合の「ふくしまの農業と地域の未来を切り拓く」心意気を感じられる記念すべきものとなりました。

（企画部、農業振興普及部）

◆りょうぜん里山がっこうが「農都交流プロジェクトモニターツアー」を開催！

平成28年11月19日（土）～20日（日）及び11月24日（木）～25日（金）、NPO法人りょうぜん里山がっこうが「農都交流プロジェクトモニターツアー」を開催し、首都圏の企業等から計18社・団体26名が参加しました。

「農都交流」とは、都市（企業）側がCSR（社会貢献）活動や社員の研修、福利厚生フィールド

として農村を活用し、農村側は耕作放棄地の再生や農作業の労力補完を図ることで企業と農村が連携し、農業・農村の活性化を図る取組です。同NPO法人は、県の「元気な農村創生企業連携モデル事業」を活用して、今年度より農都交流に取り組んでいます。

ツアーは、りんご生産農家の果樹園や、特産品のあんぽ柿の加工施設「あんぽ柿振興センター『あんぽ工房みらい』」の視察、あんぽ柿づくり体験、秋野菜の管理・収穫体験、地域の農家のお母さん方が作ったおいしいもの 21 品が試食できるイベント「大石たべもの博交流会」への参加、霊山神社で宮司さんに地域の歴史について講話をいただいた歴史散策など、盛りだくさんの内容で、参加者に様々な農村の魅力を体験をしていただきました。



りんご生産農家の果樹園の視察



あんぽ柿づくり体験

また、地元の農業者や関係機関との意見交換会では、参加者から、今後の企業受入れに関する貴重な御意見をいただくことができました。



参加者による意見交換会

同NPO法人では、第3回目のツアーを平成 29 年 2 月に実施する予定です。御興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

※問合せ先

NPO法人りょうぜん里山がっこう

電話:024-587-1032

URL:<http://www.date-satoyama.com/html/houshou-anou.html>

(企画部)

◆「豊かな^{しらね}白根の里づくり協議会」が「もろこし」をPR!

平成 28 年 10 月 30 日(日)、伊達市梁川町の白根小学校体育館において、「豊かな白根の里づくり協議会」主催の「もろこしフェスティバル」が開催されました。同地区では、以前から全国的にも珍しい赤い粒々の雑穀「もろこし」を栽培しており、同協議会が、県の「福島県過疎・中山間地域連携事業『里山の農村交流・地域活性化事業』」を活用して開催したものです。

当日は、野菜ソムリエコミュニティ福島の藤原かおり会長より、「もろこしと歩み 白根で暮らす」と題して、白根地区におけるもろこし栽培の歴史と取組の経緯や、もろこしを活用した新メニューの提案等について講演いただきました。



野菜ソムリエコミュニティ福島 藤原会長の講演

また、「もろこしおふかし」や「もろこし団子」の試食品が提供されたほか、アンケートも実施されました。参加者から「素朴で優しい味だね」、「おいしいね」などの声が聞かれ大好評でした。



もろこしおこわ(赤い粒々がもろこし)



もろこしだんご

他にも、10月23日(日)に開催された「三浦弥平杯ロードレース」や、11月5日(土)～6日(日)

に開催された「JAまつり『やながわふるりの秋まつり』」において、パンフレット配布や試食品の提供を行い、もろこしを積極的にPRしました。

同協議会では、今後も、もろこしの栽培拡大やPRに取り組んでいく予定ですので、ぜひ御注目ください。

(企画部)

◆園児たちと農業後継者が一緒にサツマイモを収穫しました！

平成28年10月25日(火)、福島市の平野農業後継者協議会が福島市立ひらの幼稚園の園児と一緒にサツマイモ掘りを行いました。

サツマイモは、今年5月に同協議会と幼稚園の園児たちが定植したもので、待ちに待った収穫の時期を迎えました。



サツマイモの掘り方を教える朴会員

まず初めに、同協議会の安齋会長の挨拶の後、朴会員がサツマイモの掘り方を説明しました。その後、会員がサポートをしながら園児たちと一緒にサツマイモを掘りました。畑は昨年まで遊休地だったため、どの程度収穫できるか不安でしたが、量も大きさも申し分ない出来でした。園児たちは、土から掘り出すたびに歓声を上げ、中には自分の顔と同じくらい大きなサツマイモを掘り当てた園児もいました。また、春に自分で植えた苗から立派なサツマイモができていることに、自然の不思議さを感じているようでした。



園児たちとサツマイモを掘る安齋会長

収穫したサツマイモは、放射性物質の検査を実施し、後日幼稚園に持って行き園児たちに配る予定です。

(農業振興普及部)

◆平成 28 年度「田んぼの学校」脱穀が行われました！

平成 28 年 11 月 18 日（金）、福島市立飯野小学校敷地内水田において、平成 28 年度「田んぼの学校」の脱穀が行われました。この事業は、県が実施する「ふくしまの農育」推進事業を活用して、平成 27 年度から 3 年間にわたって、5 年生児童を対象に実施されているものです。今回は、10 月に稲を刈り「はせがけ」（乾燥）していたものを脱穀しました。



脱穀の仕方の説明を聞く児童たち

初めに、飯野小学校の大舟木校長先生から「今まで準備をしてくれた先生たちに感謝して、けがのないように作業して欲しい」との挨拶がありました。

次に、田んぼの学校長である高野久氏から、今回の脱穀で使用する道具や使い方についての説明がありました。



足踏み脱穀機で脱穀

そして、児童たちはそれぞれ稲を手に、まず「千歯こき」と「足踏み脱穀機」という昔ながらの道具を使って、脱穀を行いました。その後「ハーベスタ」という機械を使い、残りの稲を脱穀しました。

脱穀が終わった児童からは、「足踏み脱穀機が楽しかった」、「昔ながらの方法で脱穀ができたのは良かった」などの感想が聞かれました。



千歯こきで脱穀

先生方からは、「今年は大変良かった」「先生に言われなくても、みんなが協力して作業ができて良かった」「大雑把にやる人や丁寧にする人など、それぞれの個性が出ていて、良かった」などの講評がありました。

次回は、来年 1 月に感謝の会と閉校式を開催し、収穫した米を試食する予定です。

(農村整備部)

◆『おいしい ふくしま いただきます!』キャンペーン in 安達」を開催!

平成 28 年 11 月 13 日(日)、二本松市の道の駅「安達」(上り線)において、『おいしい ふくしま いただきます!』キャンペーン in 安達」を開催しました。

このキャンペーンは、県産農林水産物のおいしさや安全性を県民の皆様にも再認識していただき、県内消費の拡大、地産地消の推進を図ることを目的として開催しているものです。当農林事務所では、これまで7月に伊達市、10月に福島市で開催し、今年で3回目、今年度最後の開催となりました。



様々な加工品が並ぶ出展ブース

当日は、安達地域の7つの直売所や加工所が出展し、農産物や加工品等を来場者に試食販売をしました。当農林事務所のブースにおいても、うつくしまライシーホワイトに御協力いただき、県オリジナル

水稻品種「天のつぶ」の新米の試食を提供したほか、午前と午後に分けて先着200名様に「福島牛」の炭火焼を提供するとともに、出展団体の「おすすめ品」が当



ライシーホワイトによる「天のつぶ」試食

たるビンゴ抽選会や、県産農産物の安全・安心に関するアンケートを実施しました。

「天のつぶ」を試食した来場者からは、「おいしかった。どこで買えますか」と言った問合せや、「福島牛」を試食した来場者からは「お肉が柔らかくておいしかった」など、県産農産物の消費拡大、PRにつながる声をたくさん聞くことができました。



福島牛の炭火焼を試食する親子

また、アンケートでは、県産農産物への安全・安心の理解や購入意欲の高まりが見られ、「頑張ってください」など、温かい声援も寄せていただきました。放射性物質検査及び結果の公表、PR活動については、引き続き継続していくことを求める声が多くありました。

今後とも安全でおいしい県産農林水産物をお買い求めください。

(企画部)

◆平成 28 年度フレッシュ農業ガイド講座を開催!

平成 28 年 10 月 25 日(火)、福島市及び川俣町において、フレッシュ農業ガイド講座を開催しました。



菱沼農園の6次化商品を試食する高校生

この講座は、管内の農業高等学校の生徒を対象に、農業に興味を持ち、将来の職業選択の一つとしてもらうことを目的として、「ふくしまの未来を創る新・農業人育成・確保支援事業」の一環として、毎年開催しているものです。今年も、福島県立福島明成高等学校2年生39名が、実際に農業者の元に足を運び、施設見学等を行いました。

当日、午前中に訪問した福島市の株式会社菱沼農園では、法人化のきっかけや6次化の取組について従業員の話をお伺いした後、加工場を見学したり、加工品の試食を通して農業への理解を深めました。また、リンゴ園地では学校の園地と異なる仕立て方を見学し、農業の多様性を感じることができました。



ベルグ福島の育苗ハウスを見学する高校生



ベルグ福島で接ぎ木作業を見学する高校生

午後は、川俣町で野菜苗を生産しているベルグ福島株式会社を訪問しました。同社では、徹底した衛生・作業管理に基づいた施設や生産体制の様子を見学し、今までの農業に対するイメージを大きく変えられたようでした。

講座終了後の生徒のアンケートによると、約8割の生徒が農業に興味を持ったようでした。将来、この中から地域を担う農業者が誕生することが期待できる一日となりました。

(農業振興普及部)

◆苗木のホームステイスタートセレモニーを開催！

平成28年11月16日(水)、福島トヨタ自動車株式会社において、苗木のホームステイスタートセレモニーを開催しました。



水戸典明当農林事務所長より苗木の引渡し

このセレモニーは、平成30年春に南相馬市において開催される「第69回全国植樹祭」等の植樹イベントで使用する苗木を、企業や家庭で育ててもらおう参加者に対して配布するために開催したものです。



苗木の管理方法について説明

当日は、クロマツとアカマツの苗木30本が水戸典明当農林事務所長から福島トヨタ自動車株式会社の西村専務取締役役に手渡されました。続いて、福島県農林水産部全国植樹祭推進室職員から、水やりや育成場所など管理方法について説明があり、健全な苗木づくりに向けた協力をお願いしました。

平成30年には、大切に育てられ大きくなった苗木が、植樹祭の会場などに植栽されるのが今から楽しみです。

(森林林業部)

◆平成 28 年度福島市・川俣町農業士会秋期研修会が開催されました！

平成 28 年 10 月 31 日（月）、福島市・川俣町農業士会主催の秋期研修会が農業士会会員、ふくしま未来農業協同組合、福島市から 12 名が参加し、開催されました。



参加者集合写真

この研修会は、農業士の更なる資質向上を目的として毎年開催しているもので、今年は福島県須賀川市の株式会社阿部農縁を視察しました。



阿部農縁の加工品の数々

阿部農縁は元看護師の女性が代表を務め、農園の「園」を「縁」に変えることで、「人との繋がりを大事にする」という経営理念を持っています。ももを中心に露地野菜等 30 品目以上の農産物を栽培し、これらを活用した農家の手作り感を重視した加工品（もものコンポート、福神漬け等）の製造、販売を行っています。ホームページ、フェイスブック、ブログ等新しい手法による情報発信、各種イベントへの積極的な参加による PR 活動等、販売方法も特徴的です。

若い女性経営主の斬新な発想や事業展開は、参加した農業士にとって大きな刺激となり、実りの多い一日となりました。

（農業振興普及部）

◆「平成 28 年度福島地域農業普及推進懇談会（第 1 回）」を開催！

平成 28 年 11 月 2 日（水）、福島市の福島県農業総合センター果樹研究所において、今年度第 1 回目の福島地域農業普及推進懇談会を開催しました。この懇談会は、管内の効率的な農業普及事業の推進を図るため、市町、農業協同組合、農業者の代表 9 名により構成されており、毎年 2 回開催しています。今回は、現地視察と、上半期の農業普及事業の成果報告とそれに係る意見・要望の聞取りをしました。



新規就農された御夫婦との意見交換

現地視察では、今年度新規就農した御夫婦の園地を訪れ、就農のきっかけや現在の役割分担、将来の営農計画等について、質疑応答がなされました。また、なしのジョイント栽培のほ場において、現在の普及状況等を説明しました。



懇談会の様子

懇談会では、担い手の育成確保が農業振興の重要課題であるとの共通した意見が出されました。また、川俣町山木屋地区の営農再開に向けて、県が中山間地向けに開発したオリジナル水稲品種「里山のつぶ」を実証栽培したほ場から収穫された精米を、参加者に試食用に提供しました。

今後も出席者からいただいた意見等を参考にさせていただきます、普及指導活動の推進を図ってまいります。

(農業振興普及部)



防風ネットを設置したほ場を視察

その後、伊達合同庁舎において、平成 28 年度普及指導計画 6 課題及び中間活動実績を説明した後、意見交換を行いました。



懇談会の様子

出席者からは、商標登録「献上桃の郷」によるブランド化の推進に向けた県からの支援、あんぼ柿の本格出荷再開に向けた「あんぼ工房みらい」への期待や蜂屋柿の収量・品質向上対策の必要性、本年度のあんぼ柿の落葉落果状況調査の要請、県オリジナル水稲品種「天のつぶ」の振興方策、いちごやきゅうりの反収向上による産地拡大、個別対応となる東京電力株式会社の補償方法への対応等、多方面にわたる意見、要望、技術的アドバイスをいただきました。

今後、出席者からいただいた多くの御意見や御要望を参考にさせていただき、普及指導活動を効果的かつ効率的に行っていききたいと思います。

(伊達農業普及所)

◆「平成28年度伊達地域農業普及推進懇談会（第1回）」を開催！

平成 28 年 10 月 26 日（水）、当農林事務所伊達農業普及所において、「平成 28 年度伊達地域農業普及推進懇談会（第 1 回）」を開催しました。



イノシシ革製品の加工作業を視察

当日は、管内市町、ふくしま未来農業協同組合、伊達果実農業協同組合、伊達地方農業士会、各市町認定農業者会、福島県普及指導協力員、当農業普及所全職員の計 25 名が出席しました。

懇談会に先立ち、「イノシシ革有効活用プロジェクト」によりイノシシ革の商品化と地域活性化に取り組んでいる伊達市霊山町の一般社団法人伊達市農林業振興公社と、「モモせん孔細菌病の総合防除対策」として防風ネットの設置やり病部のせん除等に取り組んでいる伊達市保原町の斎藤壽行氏のほ場視察を行いました。

ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動県北地方推進本部の構成員活動紹介

県北地区商工会連絡協議会 “奥州統一「芋煮の陣 in 全国大会」” を開催しました！

平成28年11月9日（水）、郡山市の「ビッグパレットふくしま」において、「奥州統一『芋煮の陣 in 全国大会』」が開催されました。

このイベントは、今年、商工会青年部・女性部が全国組織化50周年を迎えるに当たり、その記念式典及び全国大会が当県で開催され、全国の商工会から青年部員・女性部員が集まるのに合わせて実施されたものです。県北地区からは、伊達市商工会青年部が福島代表として参加しました。

「芋煮の陣」自体は、第1回が平成22年に宮城県、山形県、秋田県の代表により開催されたのを始まりに、福島県も震災の翌年の平成24年から加わり、「元気な東北！」「負けない東北！」を発信してきました。

大会の開催を通して、

- ① 東北の底力と、県を越えた青年部員同士の強い絆を広く全国の方々に知っていただくこと
- ② 我々東北民のソウルフードである「芋煮」の魅力をもPRすること
- ③ これらを踏まえて、風評に惑わされることなく地元農産物が選択されるよう消費拡大を図ること

ができました。

また、今までに例を見ない、県を跨いだ単会青年部同士の連携による当事業を実施することで、商工会青年部活動の新たな事例として、今後の商工会青年部活動全体の活性化の一助となるよう全国の部員に体験していただくことができました。



ポスター



郷土色豊かな芋煮



福島県代表(伊達市商工会青年部)

福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-521-2596 FAX 024-521-2850

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/>

電子メール kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp

